

## インフルエンザ診療Next : トピックス

いずれも薬剤投与例から、ウイルスは全てAH3亜型

## ゾフルーザ耐性、新たに3株、検出率は10.9%に

2019/2/5

[三和 護 = 編集委員](#)

国立感染症研究所と全国地方衛生研究所が共同で行っている抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランスによると、2月1日時点で、バロキサビル マルボキシル（商品名ゾフルーザ）の耐性株が新たに3株、報告された。いずれも薬剤投与例から見つかったもので、インフルエンザウイルスのタイプは全てA/H3N2亜型だった。A/H1N1pdm2009やB型からは検出されていない。

ゾフルーザに耐性を示すI38T耐性変異を持つウイルスは、1月21日時点で、AH3亜型から今季初めてとなる2株が見つかった（[関連記事](#)）。

その後、2月1日時点で新たに3株の報告があり、累計では解析対象となったAH3亜型46株のうち5株から検出され、検出率は10.9%となった（[表1](#)）。

ゾフルーザ以外では、AH1pdm09においてオセルタミビル（タミフル）とペラミビル（ラピアクタ）の耐性株が1株、検出されている（検出率は0.2%）。また、アマタジン（AH1pdm09、AH3亜型）で、解析対象の全てで耐性株が見つかる。

**表1 2018/2019シーズン抗インフルエンザ薬耐性株検出情報（2月1日時点）**  
（抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランスから）

A/H1N1pdm09						
	パロキサビル	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン
耐性株数 (%)	0	1 (0.2%)	1 (0.2%)	0	0	66 (100%)
解析株数	65	422	422	129	129	66
A/H3N2						
	パロキサビル	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン
耐性株数 (%)	<b>5 (10.9%)</b>	0	0	0	0	46 (100%)
解析株数	46	42	42	42	42	46
B						
	パロキサビル	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	
耐性株数 (%)	0	0	0	0	0	
解析株数	1	6	6	6	6	

\*エンドヌクレアーゼ阻害薬（パロキサビル）はFocus reduction assayおよびPA遺伝子シーケンス法により解析された。全ての耐性変異株は、I38T耐性変異を持っていた。

\*ノイラミニダーゼ阻害薬（オセルタミビル～ラニナミビル）はMUNANA基質を用いる蛍光法、NA-XTD基質を用いる化学発光法、real time RT-PCR allelic discrimination法およびNA遺伝子シーケンス法により解析された。

\*M2阻害薬（アマンタジン）はM2遺伝子シーケンス法により解析された。全ての耐性変異株は、S31N耐性変異を持っていた。

\*アマンタジンはB型には無効とされている。

© 2006-2019 Nikkei Business Publications, Inc. All Rights Reserved.